



小学生と給食を囲むアフリカの研修員
(日本での様々な体験が、帰国後の課題解決の原動力となります)

初等・中等教育協力の現状と課題

「教育は万人の基本的権利であり、平和で健全な安定した世界を構築するための基礎となる」と言われ、教育の重要性が広く認識されています。一方、世界中で非識字者が8億8千万人以上おり、未就学の子供が1億2千万人もいるとされています。



研修の成果を話し合うアフリカの研修員

初等教育就学率の下位20カ国のデータ(1995 - 1999年)をみると、ソマリアの13.5%を筆頭に就学率50%を割る国が7カ国もあり、アフガニスタンを除くと、いずれもアフリカ地域のサハラ以南の国々です。これらの諸国では、就学率の男女差にも大きな開きがみられます。さらに中等教育就学率の下位20カ国をみると、エチオピア、タンザニア、ニジェールなど10%を割る国もみられ、初等教育以上に普及に困難が伴うことがわかります。

1990年にタイで「万人のための教育世界会議(WCEFA)」が開催され、「万人のための世界教育宣言」が採択され、「すべての人々に教育を(EFA-Education for All)」が世界共通の目標であるという国際的なコンセンサスが得られました。これを踏まえて2000年に、セネガルのダカールで「世界教育フォーラム(WEF)」が開催されました。なかなか達成困難な目標への取組むのために、「ダカール行動の枠組み(The Dakar Framework for Action)」として、6つの目標が設定されました。これらの目標のうち、「2015年までの初等教育の完全就学と修了の達成」と「2005年までの初等中等教育における男女格差解消と2015年までの教育における男女平等の達成」については、ミレニアム開発目標(MDGs)にも採用されています。しかしながら、いずれについても、現実には達成がなかなか困難な目標であると言えます。

一方わが国においては、1993年と1998年に開催された「アフリカ開発会議(TICAD)」や1996年の「アフリカ支援イニシアティブ」で、アフリカ支援の重視が打ち出され、その

中で基礎教育開発への支援が大きな課題として認識されました。JICAでは、分野別援助研究会や教育援助拡充のためのタスクフォースなどを設置し、教育協力のあり方を検討してきました。

すべての子供たちが十分な質の初等教育を受ける環境をつくるためには、ハード面の整備を行い就学率を向上させつつ、同時に質の改善をはかるための教員研修などソフト面への取り組みが必要です。そのためには、教育行政や学校のマネジメントの改善、ひいては教員の待遇改善なども重要です。また、未就学の原因は、教室の不足だけではなく、学費負担や親の教育に対する認識の不足、子供が家庭における大切な働き手となっていることなど、さまざまです。コミュニティや家庭の教育に対する理解促進のために啓発活動を行うなど、子供たちを取り巻く教育環境の改善にも取り組む必要があります。



青空教室で学習するグアテマラの子供たち

このように、取り組むべき課題は多いのが現状です。わが国の基礎教育分野における実際の協力は、従来、無償資金協力による小・中学校の建設や青年海外協力隊による教師派遣(特にアフリカ地域への理数科教師)などを中心に実施されてきたと言えます。

今後、協力の効果をより一層高めるためには、従来のように、ハード面の整備や人材育成だけではなく、教育行政や学校運営などの領域にも踏み込んだアプローチを組み合わせることが必要です。加えて、相手国政府のオーナーシップを高めるための努力、他の援助機関との連携、そして地域社会・家庭・教師などのさまざまな関係者との連携をはかるなどなど、対象国の教育分野全体の動きを視野に入れた協力の進め方やコミュニティ全体の参加を促すようなアプローチが求められています。

JICA中国による初等・中等教育協力

研修改革と分野特性

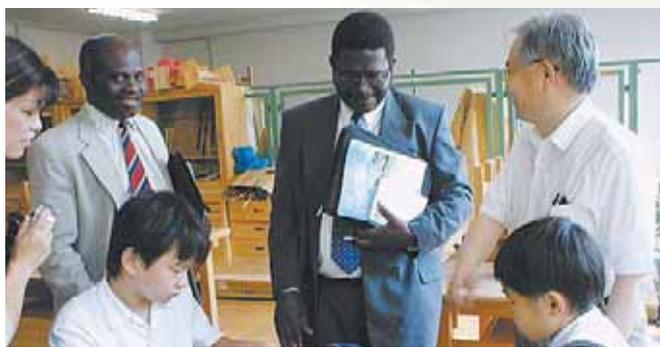
JICA中国では、開発途上国から来た研修員の受入事業がより効果的なものとなるよう、さまざまな取り組みを行ってきています。その一つが、分野特性です。これは、JICA中国の所在する広島県などのリソースを、できるだけ研修に活用しようというものです。現在初等・中等教育と復興開発（広島の復興経験などを活用）が、JICA中国の分野特性になっています。

このうち初等・中等教育については、JICA中国で受け入れているグループ型研修26コースの内、7コースがこの分野です（17年度実績）。その7コースすべてが、広島大学を研修実施機関としています。同大学は、以前から国際教育協りに注力されており、平成9年4月には、国際教育協力に関する実践的・開発的研究を行う日本で初の拠点として、教育開発国際協力センター（CICE）を学内に設置しました。

上述7コースの大半（6コース）は、アフリカ向けです。地域・国では、西アフリカを中心とした仏語圏アフリカやケニア、南アフリカ共和国などを対象としています。これは、JICAがアフリカの初等・中等教育支援を強化していること、一方CICEも同様に、アフリカを協力重点地域とされていることがうまく合致した結果です。JICA中国では18年度も、同センターや広島大学大学院国際協力研究科などを受入先として、仏語圏アフリカ「教育行政」や南アフリカ「理数科教員養成者研修」など初等・中等教育分野の研修コースを実施します。

JICA中国による初等・中等教育分野のグループ型研修（平成17年度）

コース名	参加国(人数)	受入期間	実施機関
「中等科学教育実技」	ガーナ・ケニア・マラウイ・ナミビア・ナイジェリア・タンザニア(6人)	2005.8.9-10.2	広島大学大学院教育学研究科
仏語圏アフリカ「教育行政」	マリ・モーリタニア・ニジェール・セネガル・ベナン・ブルキナファソ・カメルーン・コートジボアール・マダガスカル(10人)	2005.8.23-10.2	広島大学高等教育研究開発センター 広島県立教育センター
南アフリカ共和国「地方教育行政」	南アフリカ共和国(10人)	2005.9.6-10.9	広島大学教育開発国際協力研究センター
フィリピン「現職教員研修」	フィリピン(8人)	2005.10.16-11.8	山口大学教育学部
南アフリカ共和国「理数科教員養成者研修」	南アフリカ共和国(9人)	2005.11.1-12.11	広島大学教育開発国際協力研究センター 鳴門教育大学
アフリカ地域「研究と対話による自立的な基礎教育開発の促進」	エチオピア・ニジェール・タンザニア・ウガンダ(12人)	2006.2.14-3.17	広島大学教育開発国際協力研究センター
ケニア「INSET運営管理」	ケニア(12人)	2006.2.21-3.26	広島大学大学院国際協力研究科 広島県立教育センター



中学校の授業の様子を視察するガーナの研修員

モデルコース

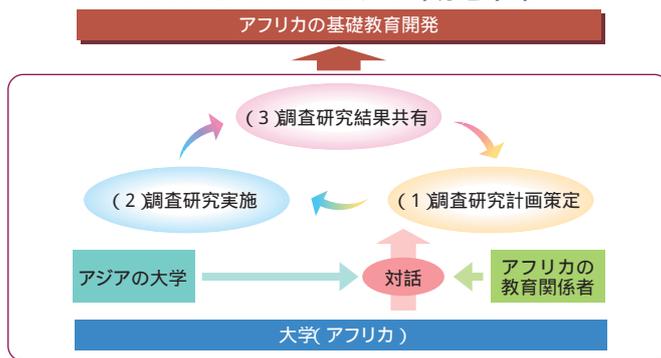
アフリカ「研究と対話による自立的な基礎教育開発の促進」

国際社会では、1990年にタイのジョムティエンで開催された「万人のための教育世界会議を契機に、「万人のための教育（Education for All: EFA）」をスローガンに、基礎教育の拡充が重視されています。その一方で、アフリカ地域は、1980年代の停滞に続き、1990年代も初等教育未就学児童数が増加している状況にあります。

このような背景の下、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）高等教育局と広島大学教育開発国際協力研究センター（CICE）は、アフリカにおける自立的な基礎教育の開発において、大学の貢献が重要であるという認識のもと、アフリカの大学とアジアの大学が経験を共有し、アフリカの大学が基礎教育開発において重要な役割を担うことを支援するAfrica-Asia University Dialogue for Basic Education Development in Africa(AAプロジェクト)を開始しました。このうちJICAでは、平成16年から毎年対象国を変え、それぞれから高等教育機関の教育分野研究者2名、教育行政官1名の3名をアフリカの4カ国から研修員として受け入れています。

研修では、まず来日前にアジアの国に立ち寄り、高等教育機関による基礎教育開発の経験を学びます。来日後は、各国のグループが自国の基礎教育開発についての調査研究の計画を作成します。帰国後、再度その計画を各国で検討した上で、調査研究を実施、その結果を国内外で共有するために発信することが期待されています。帰国後の調査研究については、必要であれば、JICAで研究費用をフォローアップ経費として付ける等協力し、調査結果が各国の政策や実践に反映するよう支援しています。

AAプロジェクト概念図



実施機関 UNESCO、広島大学CICE 協力機関 UNU、JICA



アフリカ「研究と対話による自立的な基礎教育開発の促進」コース

あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでにがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター

TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826

島根県松江市学園南1-2-1
くびきメッセ2F

E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/



長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職種:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団

TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947

鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F

E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html



花岡 潤
青年海外協力隊OB
派遣国:パプアニューギニア
職種:村落開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会

TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811

山口県山口市吉敷3185-1

E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/



鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職種:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター

TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811

広島市中区中島町1-5

E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



礪村 祐子
日系社会青年ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職種:日系日本語学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター

TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037

広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F

E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白築 健
日系社会青年ボランティアOB
派遣国:ボリビア
職種:日系日本語学校教師

岡山県

(財)岡山県国際交流協会

TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2226
配置先住所:〒700-0026

岡山市奉還町2-2-1

E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



梶田三佐江
青年海外協力隊OG
派遣国:タンザニア
職種:コンピュータ技術



広島大学
教育開発国際協力研究センター
澤村 信英 助教授

「アフリカと日本を結ぶ教育協力活動」

アフリカを身近に感じられるのが広島大学です。当センターをはじめ、国際協力研究科、教育学研究科等では、ガーナやケニアなどのアフリカ諸国からJICA研修員を受け入れるだけでなく、教員や学生がフィールドワークに出かけます。調査とは別に、来日経験のある方々にそれぞれの母国で再会するのは楽しいものです。日本人の親切さ、何事も時間通りに進むことなど、日本での滞在経験をおもしろく話してくれます。

このような人的関係を築くことができるのは、JICAと大学の連携協力の成果です。大学は途上国との国際協力をゼロから始めるのは得意ではありませんが、持続性という点ではどこの組織にも負けません。大学がJICA事業を通じて得た経験は、大学が自ら行う国際協力活動として結実しています。たとえば、当センターでは「アフリカ・アジア大学間対話プロジェクト」を推進し、初等教育の完全普及に貢献すべく、10カ国以上の国々と共同研究を進めています。その推進力となっているのは、JICAの研修事業です。

広島大学は、国際的な連携および交流活動において、全国で特に高い評価を受けていますが、この理由は身近にJICA中国があることと無関係ではないでしょう。



広島での研修事業の成果は現地で役立っている(ケニアの学校)



広島県立教育センター企画部
小野 裕之 指導主事

「広島県立教育センターのJICA関連研修事業」

広島県立教育センターは、平成5年に国際交流事業をスタートさせました。この事業は、主に開発途上国からの研修員を受け入れ、日本及び広島県の教育行政、教育制度、教員養成、教職員研修や教材開発等についての研修を通して、各国の教育システムの構築を支援するものです。

次に、平成5年にJICAと連携して実施した海外研修員の研修の概要を示します。

平成5年度(初年度)JICAとの連携による海外研修員の研修

プログラム	人数	国名	研修内容
国別特設研修	10名	フィリピン	日本及び広島県の教育行政、教育制度、教員養成、教職員研修、教材開発等について講義・演習等を行う。
科学教育実技集団研修	6名	バハレーン、チリ、ケニア、韓国、シンガポール、フィリピン	教育センターの視察や身近な素材を活用した教材作成、理科実験等を行う。
日本語教師研修実地研修	2名	ブラジル	日本の学校及びブラジルにおける日本語指導の現状等についての情報交換を行う。

広島県立教育センター 教育けんきゅう No.21 1994

平成18年度は、7コースの研修を実施する予定です。主な研修コースに、仏語圏アフリカ「教育行政」研修、ケニア「INSET(現職教員)」研修、中等科学教育実技研修の3コースがあります。その中のケニア「INSET(現職教員)」研修コースは、2月中旬から約一週間、JICA、広島大学、広島県立教育センターの三者が連携して、ケニア各地区における現職教員研修の運営管理責任者である校長、視学官等を対象に行うプログラムです。

毎年、研修員から高い評価をいただいているところですが、今後も開発途上国のニーズに応え、教育分野の発展に寄与するJICA関連事業を実施できるよう、JICA中国国際センターとの連携を一層深めていきたいと考えています。



情報機器活用による理科実験授業

各県 国際協力推進員の活動

鳥取県

開発教育（国際理解教育）支援への積極的な取り組み

JICA 国際協力出前講座を始めとする開発教育支援に、積極的に取り組んでいます。新たに帰国した青年海外協力隊員による体験談に加え、「世界がもし100人の村だったら」や「新・貿易ゲーム」などの参加型シミュレーションを、現場の先生方のご協力により随時実施しています。「JOCA地球生活体験学習教材」等の教材の貸出も行っていますので、是非ご利用ください。

青年海外協力隊 - 鳥取県出身隊員活動パネル展の開催

ボランティア派遣事業の春募集期間中に、県東部・中部・西部の3会場で、青年海外協力隊県内出身者の活動の様子を紹介するパネル展を開催しました。パネル展では、青年海外協力隊事業の紹介のみではなく、JICA 全体事業の紹介や、学校現場の先生方を対象とした開発教育支援事業のパフレット等の提供も行いました。県民の方々に、JICAの活動を広く知っていただく良い機会となりました。



鳥取県出身隊員活動パネル展

島根県

列島シンポジウム「ピース・トーク・マラソン in 島根」開催(3/11)

平和と国際協力の列島シンポジウム「ピース・トーク・マラソン2003 - 2007 in 島根」(JICA、山陰中央新報社、全国地方新聞社連合会主催)を、松江市のくにびきメッセで開催しました。当日、会場には約180名の参加者が集いました。「地球環境問題には、三つの不公平を抱えている。」とメインゲストの北野大(淑徳大学教授)さん。ピースメッセージでは、アフリカ派遣青年海外協力隊の現地取材を報告する井上誉文(山陰中央新報記者)さん。「音楽を通してアフリカの良さを感じてもらいたい」と結成された市民グループ「たいようクラブ」の皆さん。パネルディスカッションでは、「一人ひとりにできること、一人のためにできること」をテーマに、パネリストとして田中章義(歌人)さん、村尾靖子(作家)さん、原田麻衣子(島根大学学生)さん、金子節志 JICA 理事。多くの方々の協力で実施できました。参加者の方々の声には、「このようなシンポジウムを開催しないと先進国日本の心は動かせないのかと思うと悲しい気がした」、「毎日の生活のあり方を考えさせられました」など様々なご意見を頂きました。このシンポジウムを通して、平和や国際協力に関わる人との出会いから、参加された皆さん一人一人の思いを再認識する良い機会になったのではないのでしょうか。



ピース・トーク・マラソン in 島根にて熱心に聞き入る参加者の皆さん

斐川図書館祭りに「世界の料理」を出店!(4/30)

8月26日(土)開催予定の「地球のステージ3」の事前広報イベントとして、斐川図書館祭りに参加しました。今回は JICA ボランティア OV 達が、ジャマイカのジャークチキン、パラグアイのエンパナーダ、パングラデシュのチキンカレーの料理屋を出店し、料理がすべて完売するほど大盛況に終わりました。他にも JICA パネル展、民族衣装の試着コーナーや世界のいろいろな楽器で遊べるスペースを設け、多くの参加者に楽しんでもらいました。

青年海外協力隊 OV によるイベント「イチゴ狩り」開催(5/27)

青年海外協力隊 OB の生越大地さん(中国・果樹)のイチゴハウスで、イベント「イチゴ狩り」を実施しました。地元の方と青年海外協力隊関係者を招いて、約60名が集まりました。当日は大雨だったのにも関わらず、協力隊員 OV の行動力をフル活用して実現したバーベキューでは、焼きバナナや焼きみかん、馬肉の焼き肉やイカの刺身、サザエまで、多彩な食を楽しみながらアフリカン音楽やダンスなどを披露し、多くの方々の興味をひき付けるイベントとなりました。

山口県

未来へ・平和へ！私たちにできること

今年も、青少年活動団体、日本人学校勤務経験のある先生たちのグループ、県国際交流協会などが主催し、地球的規模の課題や国際協力について考える講座や講演会(市民参加協力事業)が始まりました。山口県では、昨年、国際理解教育の講座に参加した大学生が中心となっており、高校生・大学生を対象に、より身近に「私たちにできること」を考える場を企画・運営したり...と少しずつ、ゆっくりですが、地域で国際協力の芽が育ちつつあります。各団体、内容も様々ですが、今まで関わりの少なかった「まちづくり」や「国際交流」などの活動をしている方たち、大学生や高校生を巻き込みながら、「国際協力は、途上国で活躍する国際協力のエキスパートに任せておくのではなく、日本に住む私たちでもできるんだ」、「他の国の課題も、自分たちに関係している」と1人1人が感じられる機会になればと願っています。



国際理解教育講座の1コマ「透明手裏剣」

岡山県

帰国ボランティア 石井正弘知事へ帰国表敬(6/5)

2005年6月から2006年5月までに帰国した青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・一般短期ボランティアが、県知事へ帰国表敬・報告を行いました。厳しい中にも喜びの大きかった活動の報告や任地での珍しい写真に、知事も興味を持たれ和やかな時が過ぎました。

世界の人々の生活と日本の国際協力(6/10)

現職職員制度で派遣された隊員 OV が、任地マーシャルでの経験を語りました。日本の常識とマーシャルの常識の違いを、参加者はワークショップを通じて楽しく学びました。グループで話し合いをしていくうちに、会場があたたかい雰囲気になり、席が足りなくなるほど大盛況でした。「あなたは幸せですか?」という講師の最後の間に、あなたはどうか答えますか?その問かけに、開場はシーンとなりましたが...

インターナショナルサロン 第1回(6/17)

テーマは「文化いろいろマレーシア」。マレーシアから岡山大学への留学生と元マレーシア協力隊員が文化や風習、環境について話をしました。会場では、マレーシアの衣装を着てのファッションショー、留学生の手料理のおやつ、楽しい文化の話。最後に隊員によるマレーシアと日本が深く関係している環境問題についての隊員による体験談でした。来場者はみな、マレーシアの環境のために私たちは何ができるのだろうか?と深く考えさせられました。



ラボ教育センターでの出前講座

広島県

「びんごちゅービーまつり」に出展 黒ひげ大活躍!

JICA 中国は4月16日、財団法人ひろしま国際センター(HIC)と共同で福山市駅家町で開催された「中国新聞びんごちゅービーまつり」に出展しました。民族衣装の試着、青年海外協力隊活動パネル展&応募相談、カンボジア・スタディツアー写真展など、盛りだくさんの企画で、約1万3,000人の来場者の注目を集めました。

中でも家族連れに大人気だったのが、1回100円で楽しみながらカンボジアを支援する「黒ひげ危機一発」ゲーム。梅に短剣を突き刺すたびにハラハラ・ドキドキ。黒ひげが飛び出すと、思わず歓声が上がります。刺した短剣の数に応じて、世界の民芸品など景品も提供。行列ができるほどの人気で、129名が楽しみました。収益金12,950円は、広島を代表する NGO の1つ「平和貢献 NGOs ひろしま」を通じて、カンボジア支援に役立てます。



大人気の「黒ひげ危機一発」ゲーム 129名の挑戦者のうち、24本の短剣をすべて刺した人は5名でした。(ひろしま国際センター 大丸昭次朗撮影)

相談をお待ちしています!

JICA 国際協力推進員の仕事の1つに、JICA 事業や国際協力、開発教育(国際理解教育支援)にかかわる相談対応があります。「学校に講師を派遣してもらえないか」、「青年海外協力隊になるには、どうしたらいいの?」、「語学力も技術もないけど、自分にもできる海外支援は?」。どんな相談にも、できるだけ丁寧に対応します。面談はもちろん、電話や電子メールでお気軽にどうぞ。

広島市

特別パネル展「ヒロシマ・ナガサキを伝えた青年海外協力隊員たち」

「広島・長崎」の両都市が、「ヒロシマ・ナガサキ」と表記される時、それは原子爆弾によってもたらされた悲しい歴史を意味します。近年、この「ヒロシマ・ナガサキ」を紹介し、現地の人々に平和について考えるきっかけを提供する「原爆紹介展」を開催する青年海外協力隊員が増えています。こういった活動の様子をぜひ広島の方々に伝えたいと、4月23日から5月7日までの期間、これらの活動を紹介する特別パネル展が開催されました。

会場となったのは、広島市内に残る数少ない被爆建物である旧日本銀行広島支店(現在は指定重要文化財)です。

- ・協力隊員達が原爆展を開催しようとした経緯の紹介
- ・世界のあお茶・コーヒーの試飲
- ・(財)広島国際文化財団の助成金「ヒロシマピースグラント2005」を受けて開催されたチリ・ケニア・パキスタン・タンザニアを中心とした各国原爆展の紹介
- ・実際に原爆展を開催した隊員達による報告会(5月4日実施)

などが行われ、期間中5,000名以上の市民が会場を訪れました。また来場者からは、ボランティア活動の合間を縫って原爆展を行う各国協力隊員への感謝と応援のメッセージが多数寄せられました。これらのメッセージは、現地の協力隊員たちへ伝えられました。



派遣先で実施した原爆展の様子を報告する隊員たち

技術研修の窓

課題分析ワークショップ ～ 課題解決型研修へのアプローチ ～

JICA中国では、初等・中等教育分野、復興開発分野に加えて、産業振興分野についても重点分野の一つとして、複数の研修を実施しています。

その中で、南部アフリカ地域の行政官を対象に実施しているのが「南部アフリカ中小企業育成」コースです。この研修コースの目的は、中小企業の地域経済における役割や中小企業振興策等について日本の経験・現状を紹介し、中小企業育成・振興策についての理解を深め、各国における中小企業の振興・経営強化を図ることです。

このコースでは、研修開始時に、課題分析ワークショップを実施し、各国の課題と原因について参加している研修員同士で議論し、整理した上で、講義や視察等の研修プログラムに入っていきます。

今回は、政策及び金融制度、技術支援及び人材開発・育成、情報支援及びマーケティング、経営支援、起業支援の5つのテーマ別に、議論を重ねました。このワークショップを通して、それぞれが抱えている課題をきちんと整理し、また他の国の現状等も理解した上で、その後に続く研修に臨むことを意図しています。研修員は、ワークショップ終了後に、課題分析シートへ自国で抱えている課題、その原因を記入します。その後約2ヶ月続く研修期間中に、講義や視察等で得た情報、知識を追加。最終的には、自国への提案まで記入します。「課題 原因 日本での取り組み 自国への提案」をひとつのシートとしてまとめることで、研修内容を理解します。また、研修の最後で作成する帰国後の行動計画(アクションプラン)が、より現実的、具体的になります。

JICA中国では、このコース以外にも4コースで、課題分析ワークショップを行っています。帰国後に研修成果が如何に発揮されるかという視点で、研修プログラムの改善に努めています。

課題分析シートのフォーマット

	A.問題点	B.原因	C.日本での取り組み	D.自国への提案
政策 / 金融制度				
技術支援 / 人材開発・育成				
情報支援 / マーケティング				
経営支援				
起業支援				



南部アフリカ中小企業育成コース・課題分析ワークショップ



広げよう! 市民参加の輪

草の根技術協力事業(パートナー型) カンボジア小学校体育科指導書作成支援

体育を通じて、カンボジアの子どもたちの健やかな未来を創ろう!

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド(本部・岡山市)は、2006年2月から教育省学校体育スポーツ局を支援するJICA草の根パートナー型支援事業「カンボジア小学校体育科指導書作成支援」を開始しました。

この背景には、ポルポト政権崩壊後のカンボジア政府が、失われた過去の遺産を取り戻し、社会的な混乱に終止符を打つために、総合的な教育開発及び人材育成を急務としたという事情があります。ハート・オブ・ゴールドは2005年12月までの5年間、カンボジア体育指導者と小・中学生の体育授業を向上させる目的で、教育省担当局と共に巡回形式の指導会を設け、継続的な支援を展開してきました。それらの活動を継続する中で、2005年1月、教育省側から、『体育授業が定着しない根源的な原因を、改善する必要がある。その原因を改善しうる指導書の作成に、是非、手を貸して欲しい。』との要請を受けました。

本プロジェクト開始にあたっては、指導書作成の前段階として必要な統計資料がなく、統計資料作成や資料分析などから開始する必要がありました。そのためハート・オブ・ゴールドは、2006年2月に『統計資料作成および体力測定実施に関する

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド 山口 拓

指導』を目的に体力測定の実験家2名を派遣し、行政官10名と小学校教師26名の育成を図るべく現地ワークショップを開催しました。

今後は、調査校で実施した体力測定と学校体育・スポーツ環境調査の結果分析と日本の体育科指導要領の翻訳を行い、体育科指導書の骨子となる指導要領の草案作成に取り組んで行く予定です。



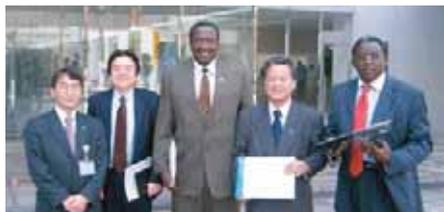
体力測定

JICA中国 年間主要行事・研修予定表

	市民参加協力・開発教育支援	海外ボランティア	研 修	青 年 招 へ い
4月		ボランティア18年度春募集 春募集説明会	沿岸漁業の統合的な管理手法(17年度継続)	
5月	国際理解教育研修会(第1回)		廃棄物管理総合技術 ガスタービン・蒸気タービン(石炭)火力発電 南東欧サボータリングインダストリー 養殖魚の健康と安全管理	
6月	中学生・高校生エッセイコンテスト募集(9/22まで) 岡山県 - 地球市民講座(第1/全7回) 山口県 - 国際理解サポーター養成講座(第1回) ピース・トーク・マラソンin鳥取	ボランティア出発前表敬訪問	仏語圏アフリカ「教育行政」 ボスニア・ヘルツェゴビナ「平和教育ネットワーク構築」	太平洋混成・経済(中小企業振興) カンボジア・行政(地方行政)
7月	鳥取県 - 国際交流・地域貢献セミナー 山口県 - 国際理解サポーター養成講座(第2回)		乾燥地水源開発 中東地域上水道維持管理	インドネシア・教育(初中等) ベトナム・教育(教育行政)
8月	Hapeac(ひろしま平和芸術週間) 出展 高校生国際協力体験プログラム 教師海外研修(ガーナ・ケニア) 広島県教育センター「国際理解教育講座」協力 山口県 - 国際理解サポーター養成講座(第3回)	地球のステーション(出雲)	中等科学教育実技 中南米生活排水処理計画	
9月	JICA - 広島県連携協議定例会	教育セミナー山陰(島根) ボランティア出発前表敬訪問	地域観光開発と持続可能な観光振興 南西アジア「公害防止行政」	
10月	東広島市「酒まつり」出展・参加 岡山県 - 地球市民フェスタinおかやま JICA中国施設一般公開 国際理解教育研修会(第2回)	ボランティア18年度秋募集 秋募集説明会	イラク「火力発電」 南アフリカ「地方教育行政」 カンボジア「地方行政」	タイ・情報技術(IT)
11月	岡山県 - 国際理解教育推進研修(第1/全3回) 広島市 - 国際交流・協力の日イベント 島根県 - 開発教育ワークショップ(全3回)	広島県OB会帰国報告会 鳥取県ボランティア家族連絡会 鳥取県帰国報告会	南アフリカ「理数科教員養成者」 社会的環境管理 能力の形成と政策評価 フィリピン「女性企業家育成支援」	インド・地域振興(青少年活動)
12月		ボランティア出発前表敬訪問		
1月	ピース・トーク・マラソンin山口 国際理解教育研修会(第3回)	ボランティア理解促進調査団派遣 岡山県家族連絡会	食品加工・保全技術 インドネシア「地方自治行政」 南部アフリカ「中小企業育成」	アフガニスタン・行政(地域開発) パキスタン・教育(教員養成) 中央アジア・経済(中小企業振興)
2月	広島県 - カンボジアスタディーツアー	教育セミナー山陰(福山)	アフリカ「研究と対話による自立的な基礎教育開発の促進」 ケニア「INSET運用管理」	
3月		山口県家族連絡会 広島県家族連絡会 ボランティア出発前表敬訪問	インドネシア「国際収支・国際経済マネジメント能力形成」 沿岸漁業の統合的な管理	

在京ケニア大使の来訪

Dennis N.O. Awori 在京ケニア大使(写真中央)が、JICA中国に来訪されました(4月6日)



笑顔を決やさないAworiケニア大使と

ピース・トーク・マラソン 2003-2007 in 鳥取(6/24)

「平和と国際協力の列島シンポジウム」として47都道府県を巡回実施するピース・トーク・マラソン。38県目となる鳥取県では、鳥取駅前のおさざなみ会館で6/24に

開催。カヌーイストで作家の野田知佑氏が、「世界の川を旅する」を講演される等、参加者全員で世界平和と国際協力を考え、共有できました。



熱心に参加する市民の皆さん



パネリスト(左から山本氏、谷田氏、大石氏、米川氏) 鳥取大学しゃんしゃん祭 傘踊りインターナショナルチーム



開発途上国で活躍中の中国5県JICA ボランティア・専門家



お問い合わせ

独立行政法人国際協力機構 中国国際センター (JICA中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)
TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082 E-mail:jicacic@jica.go.jp
URL: <http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html>

JICA中国ニュースのバックナンバーがHPよりダウンロード出来るようになりました!!
詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/whatscic/news.html/>

